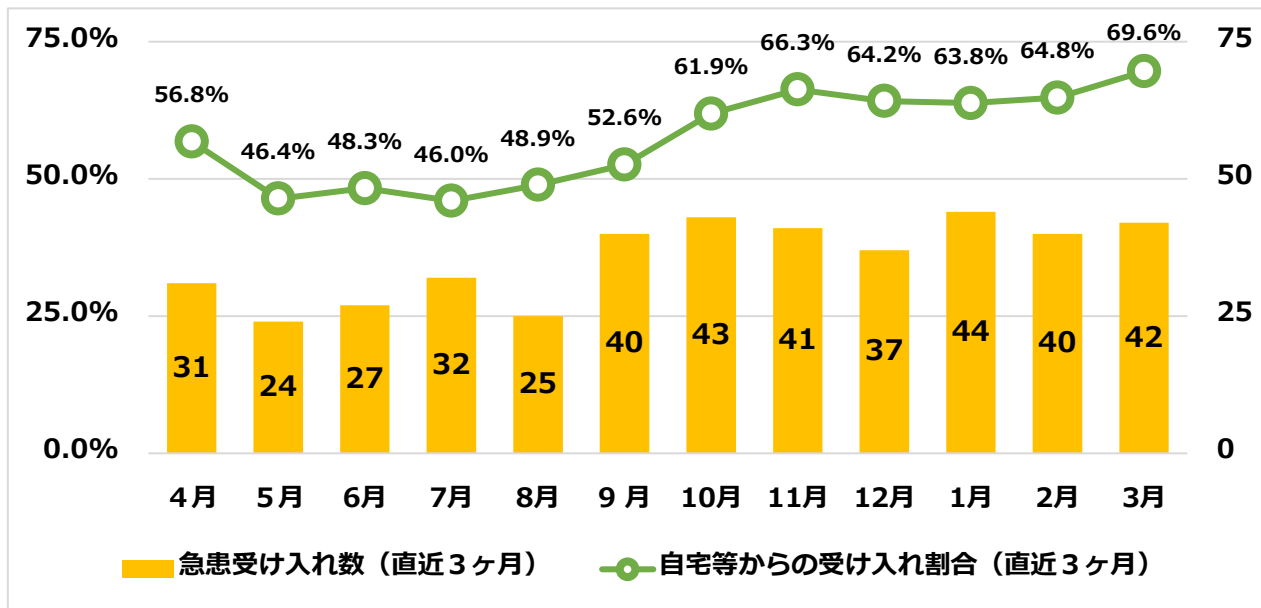


地域包括ケア病棟アウトカム (2025年度)

【入院時指標】



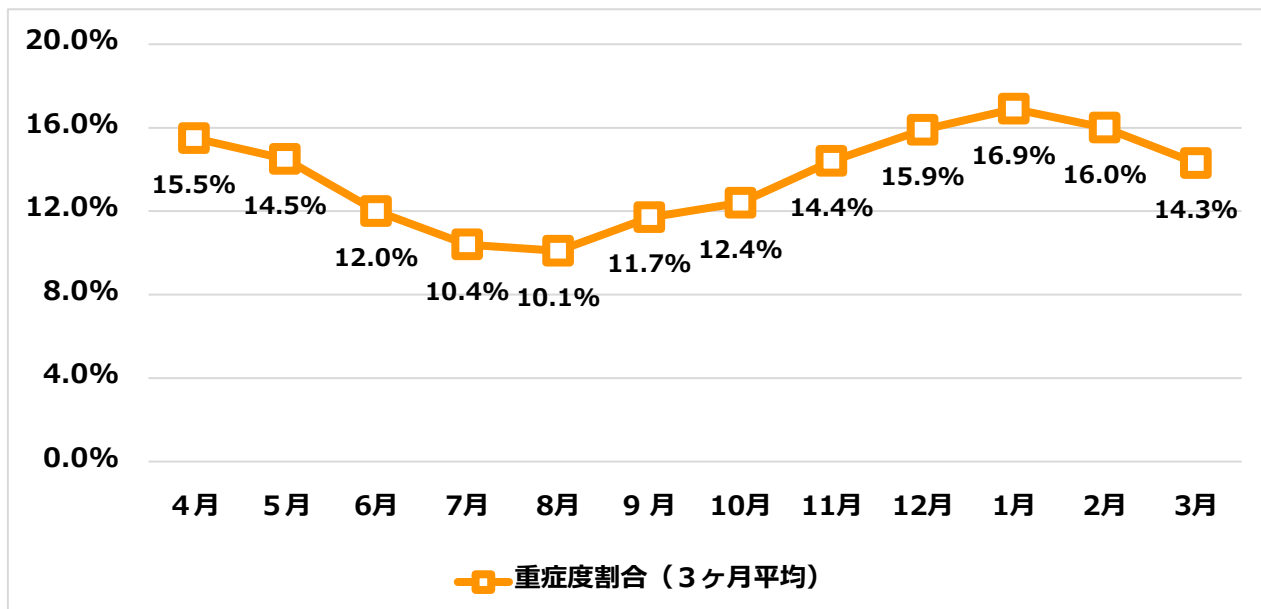
【施設基準】

- 急患受け入れ：直近3ヶ月で9人以上
- 自宅等受け入れ割合：直近3ヶ月で20%以上
- 重症割合：看護必要度 A項目 1点以上
C項目 1点以上 } 3ヶ月平均8%以上

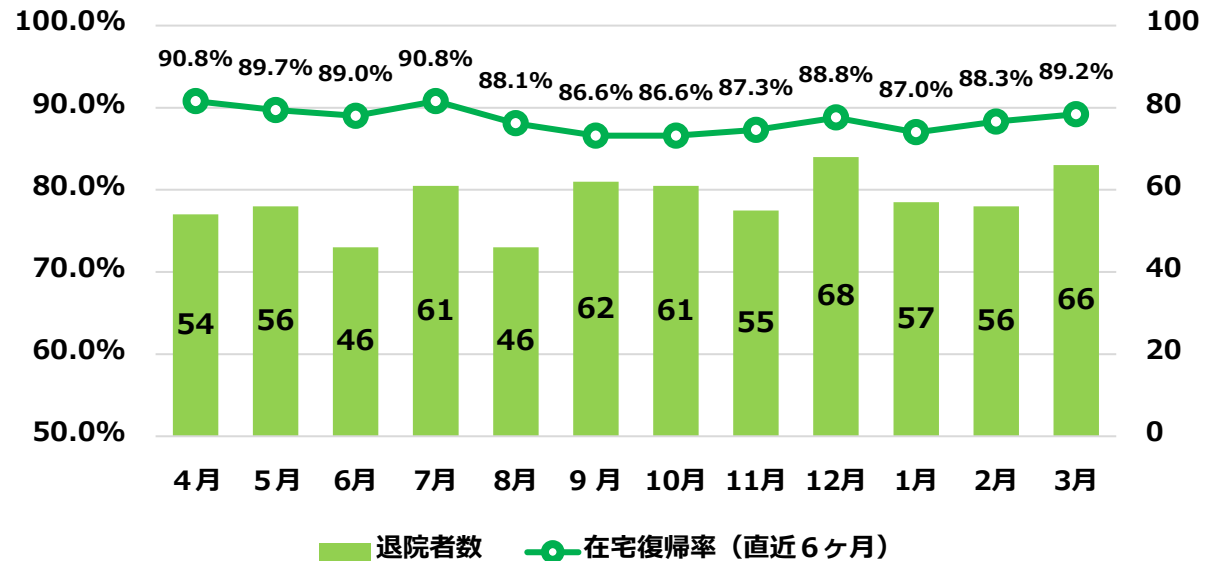
【考察】

地域包括ケア病棟は、急性期治療を経過した後の受け入れ（ポストアキュート機能）と在宅療養をしている方の受け入れ（サブアキュート機能）の2つがある。

近隣地域の医療機関との連携を強化したことや、前年度より特別養護老人ホームと協力医療機関の連携協定を締結したことで、自宅等からの受け入れや急患受け入れ、重症度割合が増加傾向となっており、施設基準を大幅に超えている。そのため地域包括ケア病棟のコンセプトである「ときどき入院、ほぼ在宅」の役割を果たせていると考える。



【退院時指標】



【施設基準】

- 在宅復帰率：72.5%（直近6ヶ月）

【考察】

2025年度の地域包括ケア病棟の転帰先は、自宅での生活再開が約7割となり、前年度より低下した。しかしこの要因として、特別養護老人ホームや有料老人ホームなどから入院されている方も増加しており、住み慣れた地域や住まいでの生活再開を支援し、高い在宅復帰率を維持している状況は前年度と大きく変化はない。

退院支援も退院前訪問指導や地域支援者との情報共有機会を積極的に設け、生活再開に向けた取り組みが高い在宅復帰率の実現に繋がったと考える。前年度と比較し、重症度や医療必要度が高い方が増加している状況を踏まえ、地域支援者との連携機会を確保することが重要であり、今後は訪問診療を行っているクリニックや訪問看護などとの退院前カンファレンスの開催機会を増やし、切れ目のない医療・介護の提供を充実させていく。また介護施設との連携に関しては、入院中の状況を適切なタイミングで情報共有し施設スタッフと定期的な情報交換機会を設けられるよう連携体制を協議していく。

